

# 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所名	下関市社協 グループホームしまど		
所在地	山口県下関市豊北町神田4611-2		
電話番号	0837-82-0246	事業所番号	3570101943
法人名	下関市社会福祉協議会		

訪問調査日	平成 19 年 11 月 22 日	評価確定日	平成 20 年 6 月 1 日
評価機関の名称及び所在地	特定非営利活動法人やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市宮野上163-1-101		

## 【情報提供票より】

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 1 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	9 人
職員数	12 人	常勤 7 人 非常勤 5 人 (常勤換算 9.2 人)	

### (2) 建物概要

建物構造	木造(在来工法) 造り	
	1 階建ての	1階 ~ 1 階部分

### (3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 30,000 円	敷金	無 円
保証金	無 円	償却の有無	無
食費	朝食 200 円	昼食 400 円	
	夕食 400 円	おやつ 円	
その他の費用	月額 20,000 円		
	内訳 光熱費15,000円 日常生活費5,000円		

### (4) 利用者の概要 (10月31日現在)

利用者数	9 名	男性 1 名	女性 8 名	
	要介護 1	1	要介護 4	0
	要介護 2	3	要介護 5	0
	要介護 3	5	要支援 2	0
年齢	平均 84 歳	最低 76 歳	最高 96 歳	

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医科 重本病院 木本クリニック さくら医院 歯科 佐々木歯科医院
---------	-------------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

### (優れている点)

利用者の安全確保を第一に考え、一人ひとりの状況を考慮した事故防止対応策が検討されています。全職員が救急救命法を受講しており、職員をモデルにした応急手当の訓練を実施しています。また、地域住民と協力して避難訓練を実施するなど、災害時の備えや対策に取り組んでいます。一方、介護職員12人(常勤7人、非常勤5人)の職員体制と異動を極力抑えた運営に努め、利用者が安心して暮らせるよう支援しています。

### (特徴的な取組等)

地域、消防、警察との連携体制はもちろん、お泊りボランティアや園芸ボランティアなど、周囲の住民より力強い協力体制が得られています。また、介護計画の作成にも力を入れており、平成18年からセンター方式を全職員が学習されました。特に不安を抱えている利用者に対しては綿密な記録をとり、職員の意見やアイデアを反映した介護計画を作成しています。個々の目標は介護記録に明示し、日々かかわった記録などを振り返り、現状に即した介護計画となるように見直しています。

## 【重点項目への取組状況】

### (前回の評価結果に対するその後の取組状況)

課題であったホーム便りへの理念の明示については、ケア会議で職員と話し合い、ホーム便り(家族向け、地域向け)への掲載を実現しました。

### (今回の自己評価の取組状況)

管理者、職員はケア会議を開き、自己評価についての考え方、記入の仕方を研修しました。その後、2回ほど検討、意見交換をして記入しました。

### (運営推進会議の取組状況)

メンバーは自治会長、民生委員、老人会、婦人会、母親クラブ、市の介護保険課職員、地域の住民(17人)です。外部評価の報告、行事計画、事業報告、避難訓練などを議題としています。

### (家族との連携状況)

家族会を年3回開催して、情報交換や日帰り旅行(夕食、なし狩り、花見など)をします。ホーム便りの送付、家族への声掛けおよび電話連絡などで、個々の状況や健康状態などを報告すると共に、介護計画のカンファレンスなどの説明をして要望等を聞いています。

### (地域との連携状況)

緊急時には消防、警察との連携のみならず、避難訓練、お泊りボランティアを通じて地域住民との連携がとれています。また日頃から、園児や大学生との交流、小学生、中学生の職場体験、ボランティア(園芸、演芸、体操、夏祭りの会場設営等)など、幅広い年齢層の住民より、理解と協力を得ています。

## 評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営 1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p><b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>	<p>「ゆったりとのんびりとその人らしく笑顔をもって」「家族や地域の方との縁を大切に」という事業所独自の理念をつくりあげている。</p>	
2 (2)	<p><b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>ミーティング時に全員で理念を唱和し、意識づけをしている。理念を日々の利用者への言葉かけや具体的なケアに活かすよう努めている。</p>	
<p>2. 地域との支えあい</p>			
3 (7)	<p><b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>自治会に加入、利用者と一緒に回覧板をまわす、ホームの畑でボランティアと季節の野菜作りをするなど、活動は地域行事にとどまらない。お泊りボランティアや月1回ホームが開催する「たまちゃん喫茶」に地域住民が来訪され日常的に交流している。</p>	
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
4 (9)	<p><b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>管理者、職員全員で外部評価の目的、自己評価の記入方法について研修し、意見交換の機会を2回設けて自己評価を記入した。前回の評価結果についてはケア会議で話し合い、ホーム便りに理念を掲載するなどできることから改善をはかった。</p>	
5 (10)	<p><b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。</p>	<p>メンバーは自治会長、民生委員、老人会、婦人会、母親クラブ、市介護保険課職員、地域住民の17名で構成され、外部評価の報告、行事計画、事業報告などが議題となっている。また、避難訓練も実施している。</p>	
6 (11)	<p><b>市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>保健師にホーム便りを配布し、種々の相談助言を受けている。市の担当者とはケアや運営について相談をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	<b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	月1回ホーム便りを発行し、担当職員がコメントを記載し、領収書とともに送付している。家族会が年3回開催され、意見交換や日帰り旅行を実施している。また、家族の来訪時に状況を報告したり、金銭出納簿の確認をしている。職員の異動は家族会や面会時に報告している。	
8 (18)	<b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	家族の意見は、来訪時や家族会で申し出がしやすいように配慮し、運営に反映している。苦情の窓口、担当者、第三者委員、外部機関を明示し、苦情処理マニュアルが作成されており、家族への説明もなされている。	
9 (20)	<b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者のペースで食事ができるよう支援するなど、利用者の状況や要望を尊重して柔軟に対応している。毎日13時から16時は外出などの支援にあて、利用者と一緒にやってくれるよう努めている。行事など必要な時間帯に職員を確保するために希望休も話し合い、急病による欠勤などには非常勤職員で対応している。	
10 (21)	<b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	特に常勤については、異動や離職を最小限に抑えるよう努めている。最近、非常勤2人の異動があったが、家族会などの機会を捉えて家族にも説明している。利用者には少しずつ慣れてもらえるよう配慮している。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	勤務の一環として外部研修を段階的に受講する仕組みがある。研修後はケア会議で復命するとともに、資料やテキストを回覧する。また、配布資料を用いて勉強会を開催することもある。	
12 (24)	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会、ブロック研修の研修会に参加し、同業者と交流する機会をもっている。同法人の3つのグループホームの管理者で会議を持ち、サービスの質の向上に取り組んでいる。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p><b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	併設のデイサービスより入所した利用者もいるが、ホームの申し込み順に入所、サービスを開始している。	・本人や家族との話し合い、体験入所など、本人が納得してサービス利用できる支援の実施
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p><b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	利用者から野菜の植え方や魚のさばき方などを教わったり、玄関に利用者の生け花が飾ってあるなど、お互いに支えあい、和やかな雰囲気与生活が送れるような場面作りをしている。	
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p><b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	日頃から利用者の思いや意向の把握に努め、センター方式を活用して個々の利用者の生活歴や日頃の言葉を記録している。把握が困難な場合は、職員が思いを酌んで、本人本位に検討している。	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p><b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	本人の思いを日頃のかかわりのなかで把握するとともに、家族にもカンファレンスの内容を説明し、意見や要望を聞いている。担当職員の意見やアイデアを職員で再度検討し、介護計画を作成している。	
17 (42)	<p><b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	介護計画は3ヶ月ごとに見直している。利用者の発言や状態を記録する生活変化シート(センター方式)や、日々の記録から、利用者の状態の変化に気づいたときには、随時見直しをしている。	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p><b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	かかりつけ医や理美容院への移送サービス、自宅訪問や墓参りなどの特別な外出の支援を行っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	<b>かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	受診、通院は本人や家族の希望に応じてホームで対応し、受診結果など必要な情報を家族に伝えている。家族が同行して受診する場合にも情報を共有し、いずれの場合もかかりつけ医と協力しながら適切な医療を受けられるように支援している。	
20 (53)	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	これまで職員間や家族会で話し合ったことはあるが、法人や医療関係者との話し合いには至っていない。現在、重度化の対応についての話し合いを検討中である。	・法人や医療機関を交えての話し合いの実施
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	<b>プライバシーの確保の徹底</b> 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	ケア会議などで職員の声かけや接し方についての学習をして全員で意識向上をはかっている。また、記録等の個人情報は人目のつかない書庫に保管している。	
22 (59)	<b>日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ゆっくりと食事をする人、好きな時間に入浴する人、散歩を楽しむ人など様々で、一人ひとりのペースを尊重し、その人らしい暮らしを支援している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	<b>食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	毎日3食調理し、職員も同じものを一緒に食べている。食事中的会話も弾んでいた。献立には利用者と職員、地域住民と一緒に作った野菜を取り入れるなど、食事を楽しむための工夫と配慮がうかがえた。	
24 (64)	<b>入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は毎日13時～16時可能であり、利用者のその日の希望やタイミングに合わせて入浴を支援している。なお、無理のない範囲で夜の入浴を行っている。また、清拭、足浴などの希望にも応じている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	<b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	手拭用ハンカチたたみ、調理、畑作り、生け花、裁縫、草とり、洗濯物を干したり、たたんだりなど、一人ひとりの特性を活かした場面づくりや楽しみごとなどの支援をしている。	
26 (68)	<b>日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	日頃から畑に行ったり、散歩をかねて近所に回覧板を持って行ったり、神社に参拝に行く。近隣のスーパーや個人商店に買い物に行ったり、花見やなし狩りなどのドライブをしている。また、年1~2回、家族と一緒に夕食をしている。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	<b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	ケア会議や研修会で学習し、拘束のないケアに取り組んでいる。	
28 (75)	<b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	早朝、夜間以外は鍵をかけないケアをしている。職員の外出の察知と個々に対する柔軟な対応、地域住民の理解と協力を得て、自由な暮らしを支援している。	
29 (78)	<b>事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	職員全員で個々の利用者の状況を確認し、転倒などの事故防止策を検討し、実行している。また、事故防止マニュアルを作成し、ヒヤリはっと報告書を活用し、事故防止に努めている。	
30 (79)	<b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	救急救命法を全職員が受講している。管理者が普通救命講習(AED)を受講しており、復命後、職員をモデルにして実地訓練を行った。緊急マニュアルも整備している。職員のみならず、お泊りボランティアにも緊急連絡体制を明示し、協力を得ている。	
31 (81)	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回、避難訓練を実施している。今年度、1回の訓練だが地域住民も参加し、協力体制を確立することができた。現在、避難場所への迅速かつ安全な避難方法を検討している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	<b>服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	薬の目的や副作用などの情報はファイルし、全職員で共有している。用法や用量についても理解した上で、利用者一人ひとりの服薬を支援し、必要な情報は医師にフィードバックしている。また、薬に関する書籍も備えており、学習もしている。	
33 (86)	<b>口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後、随時、うがいは徹底して行っている。夕食後、義歯の洗浄を個々の利用者の能力に応じて支援し、保管している。	
34 (87)	<b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分量や食事量の記録をし、栄養士資格を有する職員が、栄養バランスや摂取カロリーに気を配っている。個々の利用者の状態に応じて、お粥や刻み食など食事形態を調整し、適量を摂取できるよう支援している。	
35 (88)	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	衛生マニュアル、感染症マニュアルを整備し、実行している。利用者及び職員全員が手洗い、うがいを励行し、感染症の予防に努めている。また、利用者及び職員全員にインフルエンザ予防接種も実施している。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	<b>居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	玄関やトイレの洗面所に季節の花を飾っている。トイレには手製の補助用具が設置され、廊下には手すりの他に長椅子が備え付けてあり、利用者が能動的に過ごせるように工夫されている。共用空間は適度に換気され、室温、照明、生活音も快適であった。畳の間もあり、居心地よく過ごせるよう配慮されている。	
37 (93)	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	テレビ、掛け軸、椅子、写真、本など、利用者のなじみのものが持ち込まれている。本人の好みによって畳の間にもでき、落ち着ける居室作りをしている。	

# 自己評価書

## 【ホームの概要】

事業所名	下関市社協グループホームしまど
所在地	山口県下関市豊北町神田4611-2
電話番号	0837-82-0246
開設年月日	平成 17 年 1 月 1 日

## 【実施ユニットの概要】 (10月31日現在)

ユニットの名称			
ユニットの定員	9 名		
ユニットの 利用者数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
	要介護 1	1	要介護 4
	要介護 2	3	要介護 5
	要介護 3	5	要支援 2
年齢構成	平均 84 歳	最低 76 歳	最高 96 歳

## 【自己評価の実施体制】

実施方法	2007/9/25にケア会議を開き自己評価の考え方記入の仕方の研修をする。職員それぞれに自己評価項目1～55までを次回のケア会議時までに記入し点検をする。 10/5に1～55までの自己評価の項目について話し合う。残りの自己評価項目の56～110を次回のケア会議時までに記入点検をする。 10/9に56～110までの自己評価の項目について話し合う。こうして職員間で自己評価について協議しました。
評価確定日	平成 19 年 10 月 15 日

## 【サービスの特徴】

木の匂いのある落ち着いた雰囲気の中でゆったりとのんびりとその人らしさを支えるケア、家族や地域の方との縁を大切にをモットーに頑張っています。入居者の制限をすることなく認知症であり共同生活が可能な高齢者の方が生活できる場を考えています。その方の尊厳を守り自尊心を傷つけないように丁寧にかかわりを持つように心がけています。家族会を年に3回開催し利用者の日ごろの様子等をお知らせし一緒に食事をする機会を作っています。広報も地域に回覧するものと家族通信に分けて作成し情報公開をしています。地域の方々との交流についても一緒に出来る行事を考え季節ごとに活動をしています。このホームの特徴として「寝たろう会」というホームにお泊りをしていただくボランティアさんがおられ職員の心の支えになっています。又同居人「たまちゃん」猫がいて利用者、職員の心を暖かい気持ちにさせてくれます。



# 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1	<b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	住み慣れた地域での安心した暮らしを支え地域、家族との縁を大切にしていととその人らしさを支え支援している。	来年1月で開所3年経つので理念について全員で見直しを考えたい。
2	<b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	廊下に理念を掲示しており申し送りを含めた朝のミーティングの際に全員で理念を唱和している。	
3	<b>運営理念の明示</b> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。	管理者がグループホームの意義と役割を明確に認識しており、内部研修で職員に伝えている。	
4	<b>運営者や管理者の取り組み</b> 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。	職員全員で入居者の方々の尊厳を大切にケアに取り組んでいる。	
5	<b>家族や地域への理念の浸透</b> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	1回/2ヶ月ずつ地域、家族向けの通信を発行している。また月1回の喫茶店や菜園を通して理解してもらえるようにしている。	
2. 地域との支えあい			
6	<b>隣近所とのつきあい</b> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえようような日常的な付き合いができるよう努めている。	日常的に散歩や買い物などに出かけ隣近所の人たちと挨拶をしたり話をしたりしている。	
7	<b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	自治会に加入し回覧板がまわってくる。また地域の保育園や学校との交流行事に参加している。自治会の作業にも参加また夏祭りや花見、敬老会、喫茶店を開催し地域の人にも協力参加してもらい顔を覚えてもらっている。	
8	<b>事業所の力を活かした地域貢献</b> 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	夏祭りやホームの行事に声掛けをして参加してもらっている。また地域の高齢者の方々にホームの畑で取れた野菜を使って惣菜を作り民生委員さんを通して配達している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	<b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価を全職員で行っている。外部評価の結果はケア会議で伝え改善するところについては話し合う。	
10	<b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	ホームの現状報告、待機者等報告し地域との交流について話し合いをしている。	
11	<b>市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	ホーム便りを保健師に渡しアドバイス等を受けている。分からない事ができた時は市の担当者にFAXをして相談している。	
12	<b>権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	今までの利用者の方で必要となる人が居なかったため職員は制度をあまりよく知らない。	今後は勉強会等で研修をしていきたいと思う。
13	<b>虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	ケア会議や勉強会で研修をしている。虐待につながらないようにストレスをためず職員は一人で問題を抱え込まないようにしている。	
4. 理念を実践するための体制			
14	<b>契約に関する説明と納得</b> 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時重要事項説明や出来ること出来ないこと等を十分説明し疑問不安があれば話してもらい答えている。	
15	<b>運営に関する利用者意見の反映</b> 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	今まで運営に関することを聞いたことがない。気つき箱は設置している。利用者同士の会話からその思いを察する努力をしている。	
16	<b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	家族向けホーム便り、地域向けホーム便りを1ヶ月ごとに発行している。家族向け便りには担当スタッフが一言記載して送付している。金銭出納簿は家族来訪時に確認してもらっている。体調については状態が変わると報告している。ケース記録の閲覧もしてもらっている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17 <b>情報開示要求への対応</b> 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	情報開示について契約書に明示している。今まで要求がなかったため職員間であまり話し合ったことがない。		要求が出た場合の対応を職員間で統一していきたい。
18 <b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	来訪時や家族会の際に常にかが何でも言ってもらえるような雰囲気作りに留意している。言われたことはケア会議、ミーティングで共有し運営に反映している。契約書に苦情受付等を明示している。		
19 <b>運営に関する職員意見の反映</b> 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ケア会議や勉強会で意見や提案を言いやすい雰囲気を作り言ってもらっている。また気がついたこと等その都度言ってもらっている。		
20 <b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	職員はローテーションを組んで勤務している。勤務時間帯は重ならないように組んでいる。また必要に応じて職員と話をしながら勤務時間をあつくしている。		
21 <b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	なるべく職員に移動がないようにし、ある場合はゆっくりと慣れさせてもらうようにしている。		
5. 人材の育成と支援			
22 <b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修には順番で積極的に参加するようにしている。その際復命書を書きケア会議で発表している。内部研修は月1回、ケア会議、勉強会をおこなっている。		
23 <b>職員配置への取り組み</b> 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	男性スタッフもあり、20代から60代までいろいろな職員がいる。猫(タマ)も同居しており利用者の暮らしに対応している。		
24 <b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	県の連絡会に加入しており研修会や勉強会に参加している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<b>職員のストレス軽減に向けた取り組み</b> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		
26	<b>向上心を持って働き続けるための取り組み</b> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
27	<b>職員の業務に対する適切な評価</b> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	<b>初期に築く本人との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
29	<b>初期に築く家族との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
30	<b>初期対応の見極めと支援</b> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
31	<b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		今後は徐々に馴染めるように体制をととのえていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32	<b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	<b>本人を共に支えあう家族との関係</b> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
34	<b>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</b> これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。		
35	<b>馴染みの人や場との関係継続の支援</b> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。		
36	<b>利用者同士の関係の支援</b> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。		職員体制は変えることが難しいので地域ボランティアの受け入れを考えたり利用者が孤立しない雰囲気作り声掛けをしていきたい。
37	<b>関係を断ち切らない取り組み</b> サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1.一人ひとりの把握			
38	<b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。		
39	<b>これまでの暮らしの把握</b> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
40	<b>暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41	<b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	家族と話をし職員全員で介護計画を作成する。	主治医や関係者ともっと話し合いアセスメントをしっかりとしたい。
42	<b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	状況が変わるたびに見直しをしたいが出来ないときもある。	現状に即した介護計画の作成。
43	<b>個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子を個別にファイルし職員間で情報を共有している。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44	<b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	医療、行政、ケアマネ等必要に応じて相談、支援をしている。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	<b>地域資源との協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	警察、消防との連携、民生委員、ボランティアとの協働(歌、踊り、体操、お泊り)	
46	<b>事業所の地域への開放</b> 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	月1回喫茶店を開き地域の方々に来てもらい交流。	
47	<b>他のサービスの活用支援</b> 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	ケアマネとの連携をとっている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<b>地域包括支援センターとの協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		介護予防についての研修を行い支援センターとの連携、職員と顔なじみになる。
49	<b>かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
50	<b>認知症の専門医等の受診支援</b> 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		
51	<b>看護職との協働</b> 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		看護職と連携をとる。
52	<b>早期退院に向けた医療機関との協働</b> 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
53	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		事務所(社協)の方針を考える。職員間での話し合い。本人、家族、医療関係との話し合い。
54	<b>重度化や終末期に向けたチームでの支援</b> 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		事務所(社協)の方針を考える。
55	<b>住み替え時の協働によるダメージの防止</b> 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56	<p><b>プライバシーの確保の徹底</b></p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>常に利用者を人生の先輩として敬い尊厳が保たれるよう言葉づかいや記録には配慮している。そのためにはケア会議や勉強会で全職員で話し合い声掛け対応、個人情報の取り扱いについて気をつけている。</p>	<p>個人情報の保護に関する研修に参加するようにしたい。</p>
57	<p><b>利用者の希望の表出や自己決定の支援</b></p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>個人個人の出来る力をみて家事を手伝ってもらっている。自己決定を支援できるようにゆっくり待つことをしている。</p>	
58	<p><b>“できる力”を大切にされた家事への支援</b></p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	<p>その人その人の出来る力を見て家事への支援をしている。</p>	<p>本人の力がでて役割意識をもって充実した生活ができる。</p>
59	<p><b>日々のその人らしい暮らし</b></p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>利用者の好まれることを優先しお天気や利用者の体調を見ながら一人ひとりに支援している。</p>	<p>一人ひとりのケアの徹底</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
60	<p><b>身だしなみやおしゃれの支援</b></p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>なじみの美容院にいけるよう支援している。訪問美容院もある。朝の着替えは本人が選べない場合2着のうちどちらがよいか本人の意向を聞くようにしている。髪には常に櫛を通すように本人に声掛けしている。</p>	
61	<p><b>食事を楽しむことのできる支援</b></p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>買い物、野菜の下ごしらえ、料理方法、味付け、盛り付けを利用者と一緒に行っている。畑に旬の野菜をとりに行き季節感を感じている。</p>	
62	<p><b>本人の嗜好の支援</b></p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>おおまかなおやつ時間は決めていますが食べたいと思われるときは対応している。おやつは出来るだけ利用者の好むものを又できるときは一緒に手作りのおやつを作るなど工夫をしている。</p>	
63	<p><b>気持ちのよい排泄の支援</b></p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>出来るだけオムツに頼らずトイレ誘導しその人その人の排泄パターンをつかみさりげなく介助をしている。夜間のみポータブルトイレを使用するという工夫をしている。</p>	



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64	<p><b>入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。</p>		夜間入浴に対応できるローテーションの工夫
65	<p><b>安眠休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。</p>		個別に出掛ける機会の支援
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
66	<p><b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。</p>		
67	<p><b>お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>		
68	<p><b>日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。</p>		
69	<p><b>普段行けない場所への外出支援</b> 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。</p>		
70	<p><b>電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>		
71	<p><b>家族や馴染みの人の訪問支援</b> 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>		
72	<p><b>家族の付き添いへの支援</b> 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	<b>家族が参加しやすい行事の実践</b> 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。		
(4)安心と安全を支える支援			
74	<b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。		
75	<b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
76	<b>利用者の安全確認</b> 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。		
77	<b>注意の必要な物品の保管・管理</b> 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。		その時々によって管理方法を考える。
78	<b>事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。		
79	<b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。		時々マニュアルを全職員で確認する。
80	<b>再発防止への取り組み</b> 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や“ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		
82	<b>リスク対応に関する家族等との話し合い</b> 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	<b>体調変化の早期発見と対応</b> 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		
84	<b>服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		
85	<b>便秘の予防と対応</b> 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		
86	<b>口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		
87	<b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
88	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		
89	<b>食材の管理</b> 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	<b>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</b> 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関前に手すり、スロープをつけ安全面に気をつけて玄関には利用者の方が生けた花を置いたり花壇に季節の花を植えたりしている。	
91	<b>居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	網戸にして外の空気を取り入れるようにしている。3食を作っているので野菜を切る音、煮物の匂い食器を洗う音等日常生活を感じていただけるよう工夫をしている。トイレの洗面所に季節の花を生けている。	
92	<b>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居間のソファや開放的な畳の間、又廊下にソファを置いたり玄関に椅子を置いたりひとりでゆっくり過ごす時間、場所が取れるように工夫をしている。	
93	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人が使い慣れたものを持参され写真や掛け軸などを飾って心地よい雰囲気をつくっている。	
94	<b>換気・空調の配慮</b> 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	温度調節は気をつけて調整はしている。居室の換気は午前と午後に行っている。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	<b>身体機能を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。	バリヤフリーの対応であるので自分でできる事はされている。	
96	<b>わかる力を活かした環境づくり</b> 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	その方が出来ることを見極めて職員が声掛けし一人ひとりの力が生かせるようにしている。	
97	<b>建物の外周や空間の活用</b> 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	食堂から見える庭に花壇や畑があり利用者さんが安全に外での活動が出来るように心掛けている。広い縁側があり季節の移り行く姿が見れて車椅子の入居者の方も出入りしやすい。	

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者の <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいの	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいの <input type="checkbox"/> ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input type="checkbox"/> 毎日ある <input type="checkbox"/> たまにある	<input type="checkbox"/> 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等と <input type="checkbox"/> 家族の1 / 3 くらいと	<input type="checkbox"/> 家族の2 / 3 くらいと <input type="checkbox"/> ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	<input type="checkbox"/> ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> たまに	<input type="checkbox"/> 数日に1回程度 <input type="checkbox"/> ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="checkbox"/> 大いに増えている <input type="checkbox"/> あまり増えていない	<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 職員の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 職員の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 家族等の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 家族等の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどできていない